

KTK
NO.113

あらぐさ通信

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

編集 あらぐさ後援会
編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会
〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3
TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215

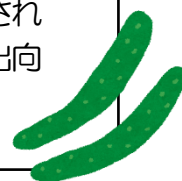


～ 収穫！ 夏の野菜たち ～



Cグループの畑は今、ミニトマト、茄子、キュウリ、ゴーヤ、京ピーマンなど、カラフルな夏野菜で彩られています。畑作業では、張り切って、力強く鍬を振り、畝を耕される方や、真剣な眼差しでスコップを使い、苗植えや、種まきに取り組まれている方など、皆さん、生き生きとした表情で、楽しそうに取り組まれています。

7・8月は収穫シーズン最盛期。ハサミを上手に使い、たくさんの野菜を収穫されています。採れたての野菜は、デイセンターの職員や、時にはいろいろ事務室にも出向き、販売活動を頑張っておられます。(佐名木)



地域で
くらす

お話し好きのセイさん

おしごと大好き！

セイさん52歳。帽子、メガネ、腕時計が好きなオシャレな人です。

おいたち

セイさんは、向日市の粟津産婦人科で産まれました。体重は2,410gの小さな男の子で、よく寝る手のかからない赤ちゃんでした。1歳1カ月で歩き始めましたが、少しずつ目の離せない多動な子になりました。

乳幼児健診で発達の遅れがわかりました。保健師さんの熱心なすすめで、保育所生活に不安を感じながらも、滝ノ町保育所に入所しました。まだ障がいのある子の保育所入所制度がすすんでいなかった時期でしたが、セイさんのための職員の加齢がついて、無事通園が始まりました。また、同時期にポニーの学校にも通いはじめました。

セイさんは年子の3人兄弟の長男です。乳母車に3人乗せて公園など散歩に行きました。元気な子供たちなので、乳母車は3台壊れ、知り合いが代わりにきてくれたり、友人がお風呂の手伝いにきてくれたり、いろんな人に子育て中にお世話になりました。感謝しています。

小学校に入る。桃山養護学校から向日が丘へ

小学校は長岡第3小学校に入学しましたが、3年生からは養護学校に転校しました。当時、地元の向日が丘養護学校は肢体不自由児校であった為、乙訓の知的障がいの子供達は、スクールバスで1時間以上かかる桃山養護学校に通っていました。

5年生の時、養護学校義務化とともに地域制がかわり、肢体障がいの子供達とともに知的障がいの子供達も向日が丘へ通学することになりました。桃山養護学校には2年間の通学でしたが、通えて良かったです。

当時の向日が丘には門扉がありませんでしたが、学校から出たりする危険があるので、親から危険防止のため門扉をつけて欲しいとの要望が寄せられ、現在の門扉になりました。

向日が丘時代は、障害児学童「わっしょいクラブ」を親たちみんなで作りました。夏休みの時には、親



友人とお出かけ（セイさん：右）

が順番で当番をして、指導員の学生さんたちと一緒に、子守勝手神社の崖登りにも行きました。地域の学校だからできたことだと思います。

中学部の時、マイコプラズマ肺炎で40日間入院しました。注射をするのが嫌で、採血に大変苦労した思い出があります。今はあらぐさで特定検診も受けられるようになりました。コロナワクチンの接種もあります。あらぐさでの集団接種の時は、みんながいるので大丈夫です。



無認可時代の「あらぐさ」活動に参加して

学校卒業後は、無認可の共同作業所あらぐさへ通うことになりました。共同作業所の運営資金作りで、親たちもよく古紙回収に出かけました。日曜日には一文橋の空き地に集まって、手分けして家々に回収に回りました。お父さんも手伝っていました。セイさんは、お父さんと知人の家に古紙をもらいに行くことが楽しみでした。

無認可時代は『バザーをします。』と宣伝すれば、一般の人から提供品がたくさん集まりました。車で受け取りに行くのも仕事。分類して、値段をつけて、保管するのも仕事。親の役目もたくさんありました。だから親はよく集まっていた。バザー当日の仕事を、親も分担します。長岡の産業文化会館を貸し切って開催したバザーでは、セイさんのお母さんは、各売り場に集まったお金の集金に、お客さんをかき分けながら回りました。

「あらぐさ」は、最初は光明寺の近くの民家、次は彦林の民家。ここでは仲間のお母さんがお習字の先生になり、ほかのお母さんが習ったりして

いました。下海印寺、久貝とだんだん大きな建物に移転し、借家も増え、通う人達も増えて、ようやく法人となり現在のあらぐさになりました。支援して下さった人達に感謝です。



今、あらぐさでは

人が好きで、知っている人に会うと、とても喜んで話をしています。カタログ販売で営業（カタログを届け、注文を集めて、商品を配達し、代金をもらう）をしたり、花子百貨店（JR 長岡京の駅前広場での青空市）のあらぐさブースでは、ピオラ販売の接客でお客さんに言葉で伝える機会が増えました。

セイさんのあらぐさでの仕事は、さをり織り、染色、大阪保育福祉専門学校の清掃、納品、接客などで、みんな好きな仕事です。

セイさんのさをり織り製品は、色のセンスがよく、明るい色が人気です。小物が売れ筋です。無認可の時代に、織った布が知事賞をいただいた時にはびっくり！また、京都市内の文化センターの舞台で、お母さん達も参加したさをりのファッションショーは良い思い出です。

以前は、京都駅の伊勢丹「ハートプラザ」（障害者施設製品販売所）まで、あらぐさクッキーを同僚の中川さんと2人で納品に行っていました。JR 長岡京までは職員に車で送ってもらい、あとは2人でJRに乗って届けていました。今は、嵐山にも店舗が移ったので、そこまでは職員と車で届けています。「セイちゃん」と声かけられるのが、励みです。



家では

あらぐさから帰宅すると、こだわりがあって、まずヤカンの取っ手を元に戻す。ゴミ拾い、洗い場の片づけ、洗濯物の取り入れ・・・とよく働いてくれます。小さい時から手伝ってもらっているので、よく細かいことに気がつきます。思い通りにならないと気持ちが落ち着かず、怒り出すこともありますが、お母さんの肩をもんでくれるやさしいところがあります。時にはちょっと力が強すぎることはありますが。

以前はお父さんの車でよく、ドライブに行きました。今はお父さんは運転をやめたので、土日は一緒にイズミヤにでかけ、買い物をしたり、食事をしたりします。セイさんは、お父さんと一緒に行くカラオケの雰囲気が好きです。以前はお母さんと、高槻の映画館



長岡京市「成人式」の日の朝

にアニメ映画を見にいきました。「氷川きよし」「中村美津子」のコンサートにも行きました。中村美津子の河内おとこ節が好きで、CDを聞いたり、テレビやラジオの歌番組を楽しんだり、歌を聴きながらビーズやビー玉を箱から箱へ入れるお気に入りの遊びで過ごしています。

外出支援は月に3回利用しています。以前はあらぐさの友人、太郎さんの企画「太郎君の旅行社」をお母さん達が打ち合わせして実行していましたが、コロナで大勢では出かけにくくなり、今は少人数か単独で出かけることが多くなりました。毎月出かけるのを楽しみにしています。

お母さんの思い

いろいろなことがありましたが、今、元気で通えて、仕事をし、話せる友達がいることが嬉しいです。ケアホームいそどりにも入居しました。

まだ毎日は泊まれませんが、職員の人達が励ましてくれて本人も頑張っているようです。ゆっくりといいところを見ながらこれからも過ごしていきたいです。

いろんな人に感謝、感謝ですね。
共にがんばっていきます。



（聞き取り・文：前田・森垣・真殿）

各グループからの報告



短冊に願いを込めて

(Aグループ)

7月に七夕の短冊作りをしました。カラフルな短冊を見て、「この色にする！」と気に入った色の短冊に手を伸ばす利用者さんや、「〇〇さんと一緒に短冊にする！」と笑顔で返事をされる利用者さんがおられました。コロナウイルスの影響で外出が難しくなっているなかでも、「今年こそは〇〇に行きたい」「好きなものを食べに行きたい」「好きな音楽をたくさん歌いたい」など、それぞれが楽しみにしていることを思い浮かべ、短冊に力を込めて願い事を書かれていました。願い事を書いた短冊を笹に飾ると、期待と笑顔があらわれていました。 (廣瀬)



夏野菜ラーメン

(Bグループ)



Bグループの畑では夏野菜がすくすくと育っています。どんな野菜を作るかは、畑活動の前にみんなで相談し、今年はスイカ、キュウリ、トウモロコシ、かぼちゃを選びました！畝に苗を植えるところから、収穫に向けての水やりなど、みんなで畑管理を頑張っています。収穫までワクワクです。隣の畝では冬に植えたニンジン、玉ねぎが立派に育ち、みんなで収穫をしました。収穫したニンジンと玉ねぎはみんなで話し合い、なんとラーメンのトッピングに！！ラーメンを作り、みんなでいただきます！とっても楽しいひと時でした。今後も野菜を育てる楽しみや、収穫して食べるワクワクを大切に支援していきたいと思っています。 (高木)



後援会費の入会・継続ありがとうございます

2022年5月25日～8月10日

敬称略 順不同

秋山喜美江 浅野晃生 浅野真奈美 芦田昌夫 芦田幸子 東俊明 荒木まち子 粟田 士郎 粟田紀江 粟野亜希子 生路智子 池島三千江 石村和子 伊藤弘紀 井上敏子 射場隆 今井正 医療法人社団くぼた医院 岩崎英雄 岩崎泰子 株式会社魚国総本社 一般社団法人江後経営 大久保秀平 大城まゆみ 大谷智子 大月裕子 大槻裕治 大坪 博美 大橋昌史 大畑京子 大林雅子 小川直 小川真寿美 奥田保 奥山禎二郎 小谷 勝利 特定非営利活動法人乙訓介護サービス 乙訓地区労働組合協議会 甲斐幸子 垣内 望美 医療法人社団片岡診療所 片山雅代 勝山宏一 勝良和子 桂誠司 桂典子 亀川 義昭 川口淳子 川瀬明子 河村雅之 神田千秋 菊井誠 北村弦 木下美智子 木村 栄美子 木村忠 木村まき子 鞍貫聡史 黒木サキ子 小林圭子 斎藤泰樹 崔本明美 佐伯敏子 坂下三良



チマカフェへ納品

(デイセンター2)

チマカフェは、長岡京市金ヶ原の閑静な住宅地にあるカフェです。「たけのこマカロン」や、ケーキ、アイシングクッキー等の手作りのお菓子や、ハンドメイドの可愛い雑貨類が並んでいます。この夏より、デイセンター2の染め製品や食品を販売させていただくことになりました。納品へ行くとお洒落な店内の雰囲気、利用者さんもわくわくされています。

ぜひ一度、チマカフェでおいしいお菓子を食べながら、あらぐさの製品をご覧ください。(岡田)



住所：〒617-0856

京都府長岡京市

金ヶ原塚六ノ前3-1

パレス金ヶ原 1F

営業時間：9：00～17：00

(ラストオーダー16：30)

定休日：毎週月曜、日曜(不定休)

(2022年7月現在)

くわしくはお店のSNSを
ご覧ください。



お知らせコーナー

・今号より紙面のサイズが大きくなりました。文字サイズの拡大や見やすいレイアウトにしていく所存です。

・10月に予定の「あらぐさひろば」は中止となりました。紙面でのリモート企画を立案中、ご期待ください。

坂下佳子 坂本憲哉 株式会社坂本建設 桜田吉昭 佐々木康二 佐々木久子 佐藤洋 澤月子 志賀妙子 篠原茂 柴田和泉 下尾因院下尾和敏 白石 直子 鈴木純子 角誠一 角摂子 住田珠江 住田初恵 瀬川光子 瀬川良介 関節子 宋彦一 田上玲子 鷹野安子 高橋謙二 高橋祐子 滝川典生 竹下久美 竹下誠 武永 健二 田坂靖子 田中栄治 田中正恭 谷口忠行 谷口弘子 俵福造 長誠一郎 長理恵子 塚上公治 築出邦子 津田拓也 寺岡敬博 宗教法人天照教 東宮健史 内藤 秀春 内藤敬子内藤基雄 長岡天満宮 中川政之 中川千津子 中川綾子 永崎みさと 永崎清彦 司法書士中西正人 中野円 中野史子 中野司 中村時雄 中村文子 中山恵美子 中山千恵子 夏川久子 仁木宏 西幹男 西井美千代 西川茂 西田政子 西村宗昭 野畑光代 橋本さつき 長谷川朋子 波多由紀子 畠中清子 畠中勇治 八田 萬喜雄 浜野利夫 浜野紘久 林英夫 林広子 原田文孝 春田石油有限会社 ぱんだ企画 久本幸満子 菱田葉子 平井多津子 平田喜洋 平塚洋子 平野路予 平野みどり 平山功 屋神仁美 廣瀬彩子 広瀬美砂 福井共子 福山八千代 藤井恵子 藤松素子 (7pへ続く)

さをりの肩掛け (ワークセンター)



今年も京都府から、「敬老の祝い品」の依頼がきました。100歳を迎えられる方に贈るお祝い品として、さをり織りの肩掛けを作製しました。年々、100歳を迎えられる方が多くなっており、昨年より多い、200枚を納品しました。

整経、糸張り、織り、房作り等、それぞれ得意な事を活かし、分担し協力しながら進めました。得意なことだけでなく、新たな作業にもチャレンジし、出来ることの幅が増えました。大変な作業でしたが、メンバー同士で励まし合い、助け合い、声を掛け合って進める姿がとても印象的でした。(田口)



豆から挽くコーヒー

(Cグループ)

ティータイムは、Cグループの皆さんが楽しみにされている活動のひとつです。週1回、午後の時間帯で行っています。コーヒーは、豆をミルで挽き、ドリップし、紅茶は茶葉を使い、ポットで蒸らして作るといった本格的なティータイムです。ミルやドリッパー、ケトルにポットと沢山の道具が必要ですが、皆さん期待一杯の様子で準備され、ティータイムが始まります。ミルー一杯に豆を入れ、力をこめて豆を挽く方や、茶葉を選び、ポットに慎重に入れます。部屋には何とも言えない良い香りが漂います。自分で淹れたコーヒーや紅茶で、クッキーやチョコレートと一緒に優雅な午後のひと時を楽しまれています。

(大江)



10周年おめでとう！(ケアホームいろいろ)

ケアホームいろいろは、7月に開設10周年を迎えました。これも皆様からのご支援のおかげかと存じます。まだまだ課題は多いですが、今後ともよろしくお願いたします。

ケアホームいろいろでは、のんびりくつろげること、たまにはイベントを通して楽しめる事を大切にしています。入居者さんの誕生日会は少し贅沢な夕食や、おやつを作り、ケーキなど、いつもと違う楽しみになっています。「今日はケーキある？」と

毎日口癖のように楽しみにされている方もおられます。

これからも入居者さんと相談し、リクエストを聞きながら楽しい生活を作っていきたいと思っております。

(粟野)



あらぐさ福祉会からの報告

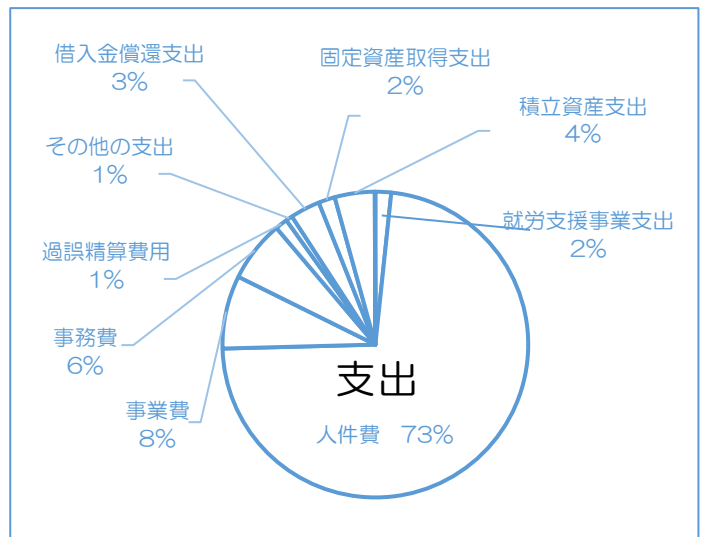
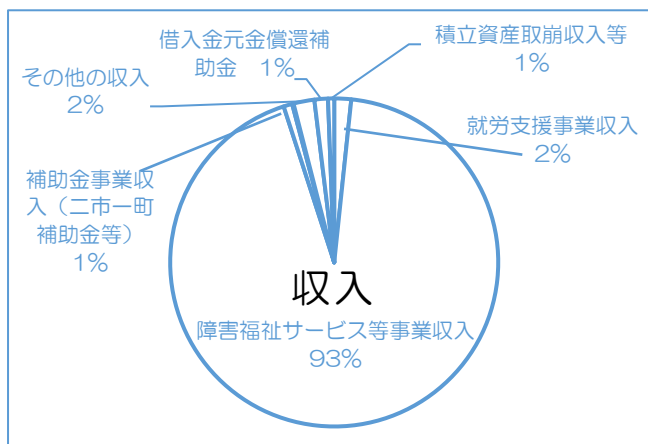
6月の理事会、評議員会にて、令和3年度事業報告・決算報告が承認されました。

令和3年度事業報告・財務諸表については、あらぐさホームページに公開しています。

<http://www.aragusa-fukushi.jp>（もしくは、あらぐさ福祉会で検索）

令和3年度

社会福祉法人あらぐさ福祉会 財務状況



(収入)

障害福祉サービス等事業収入…障害福祉サービスに対する
国、地方公共団体からの介護給付費

(支出)

人件費支出…常勤職員 51人 非常勤職員 78人
事業費…主に利用者の活動に関わる支出
事務費…運営事務に要する支出
借入金元金償還支出…建物・土地の借入金返済

(令和3年度決算の特徴)

障害福祉サービス等事業収入は4億円を超え、ワークの就労事業、短期入所、移動支援などにコロナウイルスの影響があったものの、法人全体では前年度より微増しました。これは共同生活援助や居宅介護等の利用が高まったことによるものです。一方で市町村事業の民間心身障害者福祉施設運営費補助金は昨年度より減額になりました。

支出の部では、人件費が73%と大部分を占めています。また設備資金借入金元金償還支出として総支出の3%の額を返済しています。

きょうされん第45回全国大会 in 岩手に参加します

9月30日(金)、10月1日(土)に被災地だった岩手県できょうされん第45回全国大会が開催されます。あらぐさ福祉会からは、森下、東宮、鞍貫の職員3人が参加を予定しています。

(5Pからの続き) 藤本秀延 ベーカリーセルフイーユ 村上泰之 細井創 細川敏 堀江幸男 本田よし子 前田幸子 前田真之介 前田知臣 前田仁 増田尚 増田弘子 増田康夫 増田靖子 松井幸子 松居正利 松浦佳織 松岡稔 岩倉美希 松永典子 松間卓 松村誠 松村昭子 松村美代子 松本英里 松山幸次 三浦次郎 三谷文菜 南やすこ 三宅州人 宮嶋均 宮嶋節代 宮田啓子 三柳美里 宮本史朗 村井悦享 村上久代 村瀬真里奈 村野英介 森清 森川浩世 森本達也 守屋伸江 森山正博 八木勝光 八木幸一 八木弘行 安井 洌 安井芳幸 (有)ヤスイカメラ 安田耕治 安田隆 安武梢 安武真理 藪見富喜男 山川宏一 山口計子 山口隆史 山口武彦 山口都子 山下敏夫 山下紀子 山中章二 山本真弓 (株)ゆう建築設計事務所代表取締役砂山憲一 横川和男 横川喜美江 横川 安子 横山和子 吉永純 吉村龍二 米村久美 米本久子 大槻拓也 禎山幸重 田中皓大 加地祥志 大槻典子 匿名29名

あらぐさと私

なかじま としゆき

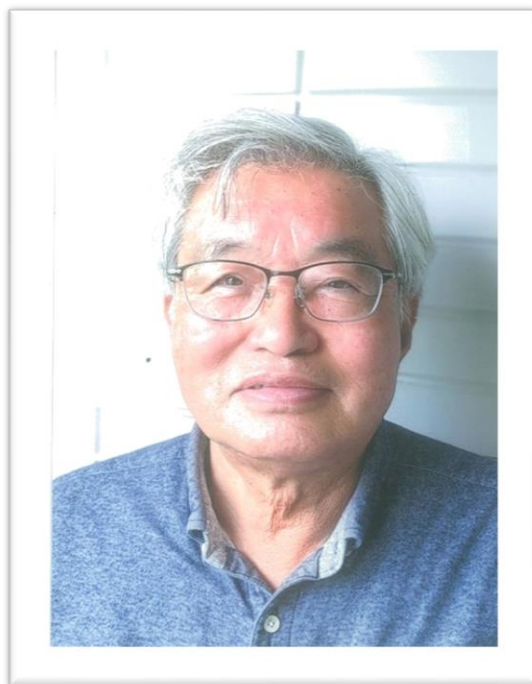
中嶋 俊行 さん



「かざぐるま」に思いを馳せて

中嶋さんには、学校教員を退職された後、15年間にわたり、ケアホームかざぐるまの支援員として力を注いでいただきました。

この春、利用者さんにかかる思いを惜しまれながら退職をされました。かざぐるままでの日々を思うことを綴っていただきました。



くまでも利用者さんに寄り添う伴走者になり
きることにしたいと思います。私で言えば、一定の
ルーティンでの場面においての関係の中で、
時には、ゴミを拾って繰り返して渡してくれ
るような時に、その必要性を痛感してしまし
た。

利用者さんとのかかわりの中で得られた、「大切な
視点」と思ったことを述べてみたいと思います。

○「あらぐさがあり、ホームがある」

日中の活動を生き生きと過ごし、ホームで癒や
される。こうしたトータルの中で利用者さんを
受け止めることです。

○「ホームの良さ」に気づくこと

多様な持ち味を持つ支援員の力を出し合って、
生み出されるホームにする、という思いです。
この15年間、小職もこの一翼を微力ながら担
えたこと、利用者さんと共に苦楽を味わい、大
過なく歩んでこられたことは、感無量です。

○利用者の思いを汲み取る為に

利用者さんの特性と行動のパターンへの理解、
共感する力を高めることです。こうした力は、
日々で得た利用者さんとの関係での積み上げで
生み出されるものです。また、支援員自身の思
い（こうならなければならない!）を捨て、あ

○ホーム生活の流れをスムーズに促す為に

前述の利用者さんの落ち着きと安心感をもた
らし、支援員に余裕が出て、笑顔を生む言葉が
あります。その言葉は、「大丈夫だよ」です。
（また、「ありがとう」も大切です。）そして、
「待ってね」と言える関係を目指し、日々の中
で「待ってもらえる力」が養えると思っていま
した。

最後に、私のモットーとした「元気で明るく
伸び伸びと」を、利用者さんと一緒に歩みの中
で叶えられたという幸せ感を得ています。こう
した思いを持てましたのも、暖かい見守りと励
ましを頂いた保護者の皆さん、強力な支援を頂
いたあらぐさの関係者の皆さんに心から感謝
いたします。

1992年6月5日 第3種郵便物承認（毎月1回25日発行）2022年9月28日発行
KTK増刊通巻第5292号 発行所 京都障害者団体定期刊行物協会
〒602-8144 京都市上京区丸太町通黒門東入藁屋町536-1 元待賢小学校1階
京都障がい者連 発行人 高谷修 頒価50円（購読料は会費に含まれています）

KTK

あらぐさ通信